

予算特別委員会の審査

平成24年度の各会計補正予算及び平成25年度の各会計予算を審査するため、議長を除く25人の議員で予算特別委員会を設置し、5日間にわたり審査を行いました。主な質疑の内容は次のとおりです。

補正予算

質疑 道路改良事業の繰越明許の発生原因は。

答弁 平成10年以前に実施した道路で、セメントに似たスラグ碎石という路盤材に問題がありました。

質疑 「地域の元気臨時交付金」の額と計画された事業だけでなく新事業としての活用は。

答弁 交付金額はおおむね地方分担分の8割程度（約19億円）です。新事業への支出は政権交代による補正予算で時間的に間に合いませんでした。

質疑 原発事故損害賠償額1310万8000円の内容及指定廃棄物処理は。

答弁 平成23年12月1日から平成24年3月31日までの賠償額で、下水道や農集排

の汚泥の放射能測定費用で

す。2年が経過して放射能数値は下がりがつつあり、焼却や堆肥化して農地還元しています。指定廃棄物の処理については今後市町村長会議の中で決定されます。

質疑 病院事業会計繰出金8000万円は必要か。

答弁 医業収益の大幅な減



貸し出し用放射能測定器

により資金繰り上必要です。**質疑** 新学校給食共同調理場での炊飯設備の設置は。

答弁 設置には多額の経費が必要なことから炊飯は県の施設に委託します。

地産地消を考え一定程度の渋川産のお米が食べられるよう要望していきます。

新年度予算

一般会計

歳入関係

質疑 基金の運用状況と一時借り入れはあるか。

答弁 基金残高は約96億7000万円。県債国債運用が約15億6000万円。成績の良いもので0・92%から1・04%でその他は0・02%です。一時借り入れはここ数年ありません。

質疑 上三原田の歌舞伎舞台修復事業の内容は。

答弁 かやぶき屋根の全面補修です。平成25年度の公演予定はありません。

総務費

質疑 町名表示実施事業の内容と今後の取り組みは。

答弁 3月10日まで21回の説明会を実施し、合わせて

605人が参加されました。今後は推進委員会に報告し推進していきます。

質疑 選挙の入場券に宣誓書を添付し、投票の簡便化を図れないか。

答弁 今年予定されている参院選には、導入して利便性の向上を図ります。

質疑 市単独事業に最低制限価格は必要か。

答弁 入札における最低制限価格の設定は、見直しを含め検討します。

質疑 旧渋川公民館は文化財に指定されているが、今後誰が管理するのか。また、保存整備のための募金の現状は。

答弁 旧渋川公民館は渋川商工会議所が保存活用を図ります。募金は「ふるさと応援寄附金」と合わせて457万5000円です。

質疑 新市建設計画見直し事業では、合併特例債の上限額は変更されるのか。

答弁 今までどおり150億を堅持していきます。

民生費・衛生費

質疑 敬老会実施事業は統



旧渋川公民館

一に向けた事業推進は。**答弁** 本年は従来どおりの開催となりますが、各地域の特色ある事業を尊重しながら、見直ししていきます。

質疑 自殺者数と自殺対策は。

答弁 平成22年度が28人。平成23年度が19人です。対策としては予防講演会、のぼり旗の設置等です。

質疑 国内で発症例のない狂犬病対策事業の廃止は。

答弁 国の法に従い市単独での廃止はできません。

質疑 救急医療情報キットは希望者に個別販売は。

答弁 前年より1000人、

／分を増加し予算化しました。支給範囲を拡大し、必要な人には配布します。

質疑 子宮頸ガン検診にHPV検査の導入は。

答弁 国からの指導もきていない状況ですが、有効であれば検討していきます。

質疑 「清流の郷」民営化に伴う選定委員は誰を委嘱し、事業者の公募の範囲は。

答弁 委員は学識者、地域福祉関係者、市職員で、広い範囲で公募します。

質疑 問題点のあるひとり暮らし高齢者等緊急通報システムの改善と利用者数は。

答弁 昨年の利用者数は6

72人で、システムについては総合的に検討します。

農林水産業費

質疑 選別農薬農法で栽培された作物の出荷先と安全性の確認は。

答弁 給食の食材として3008結を使用し、有機リン系、ネオニコチノイドを使用しないということを確認しています。

質疑 竹林整備事業の内容は。

答弁 渋川・伊香保地区で竹の破砕機を1台購入し、竹チップは竹炭として活用し、農産物の食味が良いと言われています。

商工費・土木費

質疑 プレミアム商品券発行事業は終了したのに予算化した根拠は。もつと平等に行き渡るような販売方法を検討する考えは。

答弁 平成22年度で終了したが市外での購買防止、市内経済活性化のためです。1人あたり購入限度は10万円です。今後販売方法は商工会議所・商工会と協議します。

質疑 買物弱者支援事業の経緯と結果、今後の取り組みは。

答弁 平成23年のアンケート調査から始まり、これまでに支援バスの運行を赤城・古巻・金島地区で実施し、延べ84人実質22人の方が活用しました。平成25年度は移動販売を予定しています。

質疑 耐震改修促進事業の実績と今後の推進策は。

答弁 耐震診断は5年間で50件、改修工事は3年間で3件、耐震化率は平成23年度で57・5%。今後は緊急輸送道路の沿線建築物の耐震改修の促進を図ります。

教育費

質疑 小中学校再編計画は、市がイニシアチブを持つて計画を示さないか。

答弁 大事な仕事なので、住民説明会で合意形成を図り地道に行います。

質疑 小野上中学校屋内運動場の必要性と活用をどう考えているのか。

答弁 教育環境の整備と学校再編統合を見据えて、社



使用禁止中の小野上中体育館

会体育館の機能を持ち合わせるものとしていきます。

国民健康保険特別会計

質疑 今後の国保財政の見通しは。

答弁 平成25年度基金を取り崩し、年度末に309万6000円の残高になりますが、基金確保に努めます。

質疑 赤城診療所の民間譲渡の考えはあるか。

答弁 県内でも指定管理の例はあるので検討します。

質疑 国保の広域化について進捗は。

答弁 平成30年度までに県が事業主体となる国保の広域化目標ですが不確定です。

介護保険特別会計

質疑 利用者負担の市独自減免の実施は。

答弁 12市中5市が実施していますが、第5期介護保険事業計画に載っていないことから行いません。

病院事業会計

質疑 リニアックの利用実績は。

答弁 平成24年1月末現在で症例として107例、金額で8703万2000円、年間換算で1億4400万円です。計画を上回っています。

質疑 合併による渋川総合病院の医療機器の活用は。

答弁 西群馬病院と協議の中で決めていきます。

質疑 廃院時の企業債の残高と債権の処理は。

答弁 11億円弱になる予定です。処理は県の市町村課と協議していきます。

農業集落排水事業

質疑 白井・吹屋の測量設計の内容は。

答弁 基本計画を進めていきましたが、反対があったので縮小して機能強化の方向で進めていきます。



救急医療情報キット